

2017年度 交換留学 留学報告書

国際交流学科 3年

留学先：スペイン サラマンカ大学 国際コース

留学期間：2017年3月～2018年2月

留学を通して学んだことしかない。この1年間のサラマンカでの生活は毎日が新しい刺激に満ち溢れていた。お互いの国の料理を持ち寄ってみんなでパーティーをしたり、スペイン語という共通言語を用いて政治や宗教や文化、異なったそれぞれの国の習慣などを他国の人々と意見し合うことができた。

また、それによって以前は全く関心の無かった世界情勢のニュースにも日頃から注意を向けて接するようになった。またそれぞれの国や大陸ごとに肌や目の色は違えど、それらの一人一人に個性があり、誰一人としておなじではない。そのため、国や人種によって人間をひとまとめにすることは絶対に出来ないということも実感した。留学が始まったばかりの頃はまだまだあまり上手に会話したり理解することが出来なかったが、スペイン語能力が上がるにつれて友達と交わすことのできる議題も増え、友人もどんどん増えていった。話せる言葉の数だけ世界中に友達が出来ると思う。今は新しい言語をいちから学んでみたいという夢でわくわくしている。

2017 年度 交換留学 留学報告書

国際交流学科 3 年

留学先：スペイン サラマンカ大学 国際コース

留学期間：2017 年 3 月～2018 年 8 月

私が留学を通じて一番に感じたことは、失敗を恐れずに挑戦することが何事においても大事だということです。挑戦することがチャンスや結果につながります。すごく当たり前のことなので、簡単にできる人もいると思いますが、私にとっては勇気のいることでした。行動を起こすことで、学習の成果やさまざまな良い経験につながりました。

まず、学習の成果においては、最終的に日常生活では困らない程度の会話を現地の人とできるようになりました。はじめの頃は、クラスでもホームステイ先でも自分の思うようになかなか行動できず、スペイン語もあまり上達しませんでした。ホームステイ先ではホストマザーの簡単な質問に「はい」と「いいえ」で返すのが精いっぱいになかなか会話にならず、クラスでも発言もたまにしかしないし、クラスが同じ人にも自分から声をかけることができませんでした。それは文法や単語が間違っていたらどうしようと不安な気持ちが大きくて、常に受け身の状態でした。しかし同じ時期にサラマンカにきた日本人がどんどん話せるようになっていっているのを見て、焦りを感じました。それから、何とかしなければと思い、まずホストマザーと 1 時間程毎日話すようにしました。そうしているうちに、人と話すということに慣れ、クラスの人たちにも積極的に話しかけることができるようになり、友達になれました。自ら行動しなければこのような成果を得られなかったと思います。

また、ホームステイ先での経験からもこのようなことが言えます。私のホームステイ先はおばあさんが一人で暮らしていました。ごはんはとてもおいしく、快適に過ごしました。仲良くなり、ある日の会話でホストマザーがフランス料理以外の他国の料理を食べたことがないということを知りました。しかもフランス料理も食べた時においしくなかったから、それ以来食べていないということです。食べる機会がなかったのではなく、食べたくないとのことでした。わたしは、その考えがすごく偏っているなって思ったし、今まで色々な国の留学生を何人も受け入れていたのにそういった機会を自ら潰しているのはすごくもったいないなと思いました。わたしは拙い言葉でホストマザーの考えをなんとか変えようとしてましたが、なかなか伝わりません。もう言葉では無理だなと思ったので、自らホストマザーがおいしいと思ってくれるような日本の料理を作ろうと思いました。そこでもホストマザーを説得するのは難しかったのですが、なんとか食べてくれました。そこでおいしいと言ってもらえました。最終的にホストマザーは今まで留学生が自国の料理を振舞ってくれると言ってくれても断ってきたけど、これからは断るのをやめると言っていました。この言葉を聞きわたし自身、すごくうれしくなりました。

留学に行き、日本では経験できないようなことをたくさん経験してきました。この経験を生かし、これから頑張っていきたいです。

2017 年度 交換留学 留学報告書

国際交流学科 3 年

留学先：スペイン サラマンカ大学 国際コース

留学期間：2017 年 3 月～2018 年 8 月

留学生活が始まって、最初のほうはホストファミリーの言っていることが全然わからず戸惑うことも多かった。文法の授業では、日本でやった内容がほとんどであったが、会話でどう使えばいいのかわからず、実践的には使えていなかったが、授業で細かく振り返ってくれるので、たくさんのことを学ぶことができた。授業が自分に合わないと感じたときはクラスを変えることもでき、柔軟に対応してくれた。また、アメリカ人の生徒は、南米のスペイン語を話すことが多く、自分の知らない言い回しなどを使っていて、たまに授業でも先生が紹介をしてくれるので、とても勉強になった。クラスメートはコースごとに変わっていくが、全体を通してみると、中国、タイ、アメリカ、ヨーロッパなどいろんな国籍の人たちと知り合えたと思う。それを通す中で、それぞれの文化や習慣を知ることが出来、日本にいたら知れなかったことや、ときには日本人から見ると理解できないこともあった。しかし、それはお互いに感じることであり、理解しあっていく大切さに気付いた。たくさんの人と知り合えたことで、語学力の向上だけでなく、内面的にも自分にとって大きな収穫になった。そうしているうちに、ホストマザーとの会話も徐々に理解できるようになっていった。ホームステイ先は、生活費を稼ぐためにやっている場合が多く、留学生にとってあまりいい条件ではない中、私のホストファミリーはすごく優しくしてくれ、間違っている文法を直してくれたり、宿題を見てくれたりした。料理も毎回とても美味しく、私が帰る一週間前には、毎日何が食べたいかを聞いてくれた。私の家は、ホストマザーが一人で暮らしている家だったが、頻繁に息子とその彼女が訪ねてきて、いっしょにご飯を食べることも多く、そこでスペインの文化を多く知ることができた。また、途中から中国人の留学生の女の子が、ホームステイ先に新しく入ってきたが、その子とも仲を深めることが出来た。週末いっしょにその子が授業で習ったというスペインの伝統的な村と一緒に訪れたり、ご飯を食べに行ったりした。留学に行く前は、正直中国に対してあまりいいイメージを持っていなかったけれど、ホームステイ先の子やクラスメートの友達を通して、中国の新しい一面を見ることが出来、みんなとても親切で、印象が大きく変わった。留学をこれから先できるかわからない中、大学生活でこのような外国でたくさんの人と知り合えるという体験をできたことは、すごく貴重なことだと思う。この経験を活かして、将来につなげていきたい。